

区分	薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
(2) 乾田直播栽培	1) B-3015・ プロメトリ ン乳	土 壌 処 理	寒冷地以西	一年生雑草	播種後～出芽前	ml/a 50	壤土～ 埴土	1) 出芽直前の使用は さける。 2) 散布直後に降雨の 予想される時は使用 をさける。

昭和55年度畑作関係 除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

昭和55年度畑作関係除草剤の試験成績中央検討会は、昭和55年12月10～11日、植調会館会議室（東京都台東区台東1-26-6）において開催した。

本年度供試された畑作関係除草剤は、定性試験7剤、作用性試験19剤、適用性試験53剤（のべ試験点数332点、大豆116点、小豆20点、菜豆13点、落花生18点、とうもろこし45点、かんしょ20点、ばれいしょ45点、てんさい23点、こんにゃく4点、さとうきび28点）、転換畑大豆用除草剤試験8剤および畑地における粒剤の効果向上に関する試験（細粒剤試験）2剤であった。

検討の結果、適用性試験の判定結果は第1表の通りであり、実用化可能と判定された薬剤別の使用基準は第2表の通りである。

転換畑(大豆)用除草剤試験については、昭和53年度から3年間継続の連絡試験を行ない、各年次ごとの成績概要については中山委員（昭和53年）、宮原委員（昭和54年）および高林委員（昭和55年）によってとりまとめられている（昭和55年度転作(大豆)関係除草剤試験成績概要については、本誌2頁を参照）。

これらの結果、2カ年以上の試験歴のある薬剤で、適用性が高いと判断されたものについて、今回、第3表の通り使用基準を作成した。特に転換畑(大豆)用除草剤の使用にあたっては、従来畑作の使用基準の注意事項の他に“土壌水分が高く土壌が大きいので、碎土・覆土を特にていねいに行なう必要がある”を加える。

畑地における粒剤の効果向上に関する試験については、農事試験場、東北農業試験場、九州農業試験場および植調研究所において、B-3015・P、CG-119・Pの両細粒剤を供試して基礎試験を実施した。検討の結果、両剤とも除草効果は、各種変動条件においても高く安定しており、薬害も認められなかった。また、処理薬量についても、手動散粒機での5kg/a処理は、均一散布が可能であることが示され、両剤とも畑地用除草剤として適用性が高いことが結論された。

なお、昭和56年度の試験においては、検討場所および薬剤をふやし基礎試験を引き続き行なうとともに、適用性が高いと判断された薬剤については、適用性試験に移し検討していく予定である。

第1表 昭和55年度 畑作関係除草剤適用性試験成績結果判定表

区 分	実	実 ・ 継	継	中 止
1) 大 豆	アラクロール乳+リニ ュロン水和(現混), ア ラクロール乳+DNBP 液(現混), アラクロー ル乳.	CG-119乳, NP-55乳, ADBA液, ジクワット液, MB-206粒, MCC粒, SL -236乳, BI-883乳.	D-792, D-801, K-253水和, K-503水和(?), RH-62乳, LP -ガス除草(?), TAW-19水和, G-315水和, HSW-802乳, MSR -794水和, NTN-70水和, SR -793水和.	トリフルラリ ン乳, トリフ ルラリン乳+ プロメトリン 水和(現混).
移植大豆	B-3015・P.			
2) 小 豆	HSW-761水和.	NP-55乳, ADBA液.	HSW-802乳, HSW-803水和, NTN-70水和, SL-236乳.	
3) 菜 豆	S-28乳, NP-48(Na) 水溶		NP-55乳, ADBA液, HSW- 802乳, HSW-803水和, SL- 236乳.	
4) 落 花 生	ADBA液.	NP-55乳, アラクロール 乳, S-28・U粒, SL-236 乳.		
5) とうもろこし	アラクロール乳.	CG-119乳, SSH-41水 和, CG-123フロアブル.	LP-ガス除草(?), トリフルラリ ン乳, トリフルラリン粒, HSW -802乳, HSW-804水和, Ro- 40粒, SAP・プロメトリン乳, SSH-55乳.	
6) 甘 し ょ		NP-55乳, アラクロール 乳, SL-236乳.	S-28乳, ジフェナミド粒.	
7) ばれいしょ	ジクワット液.	トリフルラリン粒, AH- 501㊟液, AH-502水和, ANK-553乳, B-3015・ P粒.	S-28乳, アラクロール乳, NK -049水和(?), Ro-40粒・乳, SAP・プロメトリン乳.	
秋植えばれ いしょ		NP-48(Na)水溶, SL -236乳.		
8) てんさい	NP-48(Na)水溶.	BJL-119+展着剤(現混)	HOK-39乳, NP-55乳, アラク ロール乳, B JL-126(現混), Ro -40粒, SL-236乳.	フェンディメ ンタル水和.
9) こんにゃく			G-315水和.	
10) さとうきび	B-3015・P粒.	G-315水和, HW-920微 粒, SSH-43粒(1%), SSH-43水和.	K-253水和, K-503水和, K -666水和.	

第2表 昭和55年度 畑作関係実用化除草剤使用基準一覧表

区 分	薬 剤 名	剤型	判 定	処理方法	処理時期	使 用 量 (製品a当り)	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
1) 大 豆	CG-119	乳	実・継	土 壌	播 種 後	m/ 20～40	全 土 壌	寒 冷 地 寒 冷 地	1) イネ科雑草 優占圃場で使用 する。
							火山灰土	温 暖 地	
						20～30	火山灰土	暖 地	
	NP-55	乳	実・継	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	m/ 15～20	全 土 壌	寒 冷 地 温 暖 地 暖 地	1) イネ科雑草 優占圃場で使用 する。 単用処理または 体系処理： 広葉雑草対象 の既登録土壌 処理剤を使用 する。
	アラクロール + リニュロン	乳 水和	実	土 壌	播 種 後	20～40 m/ +15 g	全 土 壌	寒 冷 地 寒 冷 地	1) 単剤の使用 基準を守る。
						30～40 m/ +15 g	火山灰土	温 暖 地 暖 地	
	アラクロール + DNBP	乳 液	実	土 壌	出 芽 前	30～40 m/ +40～60 m/	全 土 壌	寒 地	1) 単剤の使用 基準を守る。
	アラクロール	乳	実	土 壌	播 種 後	30～60 m/ 〔但し、寒 地は30～ 40m/。〕	全 土 壌	寒 冷 地 寒 冷 地	1) イネ科雑草 優占圃場で使用 する。
							火山灰土	温 暖 地 暖 地	
	ADBA	液	実・継	土 壌	播 種 後	m/ 100～150	火山灰土	寒 冷 地 温暖地東部	1) ツクサに 劣る。
							全 土 壌	暖 地	
	ジクワット	液	実・継	茎 葉	播種後30 ～35日 (大豆本 葉5～6 葉期)	m/ 30～50	全 土 壌	寒 冷 地 温 暖 地	1) 大豆の茎葉 に薬液がかか らないように 散布する
	MB-206	粒	実・継	土 壌	播 種 後	g 400～600	全 土 壌	寒 冷 地 温 暖 地 暖 地	

対象作物	薬 剤 名	剤型	判 定	処理方法	処理時期	使 用 量 (製品a当り)	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
1) 大 豆	MCC	粒	実・継	土 壌	播 種 後	g 400～600	火山灰土	温 暖 地 暖 地	
	<u>SL-236</u>	乳	実・継	茎 葉	イネ科雑 草 3～5 葉期	ml 7.5～15	全 土 壤	寒 冷 地 温 暖 地 暖 地	1) イネ科雑草 優占圃場で使 用する。 単用処理又は 体系処理：広 葉雑草に有効 な既登録土壌 処理剤を使用 する。
	<u>BI-883</u>	乳	実・継	茎 葉	イネ科雑 草 1～4 葉期	ml 10～20	全 土 壤	寒 冷 地	同 上
移植大豆	<u>B-3015・P</u>	粒	実	土 壌	移植後雑 草発生前	g 500～600	全 土 壤	寒 冷 地	1) 葉になるべ くかからない ように散布。 2) 葉に水分が 付着している 場合は散布し ない。 3) 移植後の土 寄せはていね いに行なう。
2) 小 豆	<u>NP-55</u>	乳	実・継	茎 葉	イネ科雑 草 3～5 葉期	ml 15～20	沖積土壌	寒 冷 地	1) イネ科雑草 優占圃場で使 用する。 単用処理また は体系処理： 広葉雑草対象 の既登録土壌 処理剤を使用 する。
	ADBA	液	実・継	土 壌	播 種 後	ml 100～150	火山灰土	寒 冷 地	1) ツユクサに 劣る。
	<u>HSW-761</u>	水和	実	土 壌	出 芽 前	g 30～40	全 土 壤	寒 地	1) 乾燥条件下 ではイネ科雑 草に効果が劣 る。
3) 菜 豆	S-28	乳	実	土 壌	出 芽 前	ml 30～40	全 土 壤	寒 地	1) 特に碎土を 良好にする。

対象作物	薬 剤 名	剤型	判 定	処理方法	処理時期	使 用 量 (製品a当り)	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
3) 菜 豆 (つづき)	S-28 (つづき)								2) 土壌の乾燥時には効果が劣る。 3) 条件により菜害の恐れがあるので注意する。 ・大正金時。 ・姫手亡。
	NP-48 (Na)	水溶	実	茎 葉	イネ科雑草 2~4 葉期。	m/ 10~15	全 土 壌	寒 地	1) イネ科雑草優占圃場で使用する。 体系処理：広葉雑草対象の既登録土壌処理剤を使用する。 ・大正金時。 ・姫手亡。
4) 落花生	NP-55	乳	実・継	茎 葉	イネ科雑草 3~5 葉期	m/ 15~20	全 土 壌	温 暖 地 暖 地	1) イネ科雑草優占圃場で使用する。 単用処理または体系処理：広葉雑草対象の既登録土壌処理剤を使用する。
	アラクロール	乳	実・継	土 壌	播 種 後	m/ 30~60	火山灰土	温 暖 地 暖 地	1) イネ科雑草優占圃場で使用する。
	ADBA	液	実	土 壌	播 種 後	m/ 100~150	火山灰土	温 暖 地 暖 地	1) 土壌の過乾・過湿条件下での使用はひかえる。
	S-28・U	粒	実・継	土 壌	播 種 後	g 500~700	全 土 壌 火山灰土	温 暖 地 暖 地	
	SL-236	乳	実・継	茎 葉	イネ科雑草 3~5 葉期	m/ 7.5~15	全 土 壌	温 暖 地 暖 地	1) イネ科雑草優占圃場で使用する。 単用処理また

対象作物	薬 剤 名	剤型	判 定	処理方法	処理時期	使 用 量 (製品a当り)	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
4) 落花生 (つづき)	SL-236 (つづき)								は体系処理： 広葉雑草対象 の既登録土壌 処理剤を使用 する。
5) とうも ろこし	CG-119	乳	実・継	土 壌	播 種 後	m/ 20~40	全 土 壌	寒 冷 地	1) イネ科雑草 優占圃場で使 用する。
							火山灰土	温 暖 地	
						20~30	火山灰土	暖 地	
	SSH-41	水和	実・継	土 壌	播 種 後	10~20 g	全 土 壌	寒 冷 地	
						10~15	火山灰土	温 暖 地	
	アラクロール	乳	実	土 壌	播 種 後	m/ 20~30	火山灰土 沖積壤土 ~埴土	寒 地	1) イネ科雑草 優占圃場で使 用する。
							全 土 壌	寒 冷 地	
						30~60	火山灰土	温 暖 地 暖 地	
	CG-123	フロ アブ ル	実・継	土 壌	播 種 後	20~40 g	全 土 壌	寒 地 寒 冷 地	
							火山灰土	温 暖 地	
						10~30	火山灰土	暖 地	
6) さとう きび	B-3015・P	粒	実	土 壌	植 付 後	g 400~600	全 土 壌 (砂土は 除く)	暖 地 沖 縄 県 (八重山地 帯は除く)	・ 春 植.
		粒	実	土 壌	植 付 後	500~600	全 土 壌	暖 地 沖 縄 県	・ 夏 植.
		粒	実・継	土 壌	中 耕 後	500~600	全 土 壌 (砂土は 除く)	暖 地 沖 縄 県 (八重山地 帯は除く)	・ 株出し.
	G-315	水和	実・継	土 壌	植 付 後	10~20 g	全 土 壌	暖 地 沖 縄 県	・ 春 植.

対象作物	薬 剤 名	剤型	判 定	処理方法	処理時期	使 用 量 (製品a当り)	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
6) さとう きび (つづき)	G-315 (つづき)	水和	実・継	土 壤	植 付 後	10~20 g	全 土 壤 (砂土は 除く)	暖 地	・ 夏 植.
		水和	実・継	土 壤	中耕後ま たは排土 後	10~20	全 土 壤 (砂土は 除く)	暖 地	・ 株出し.
	HW-920	微粒	実・継	土 壤	植 付 後	g 500~1000	全 土 壤	暖 地 沖 縄 県	・ 春 植.
		微粒	実・継	土 壤	植 付 後	750~1000	火山灰土	暖 地	・ 夏 植.
		微粒	実・継	土 壤	中 耕 後	500~1000	全 土 壤	暖 地 沖 縄 県	・ 株出し.
	SSH-43 (4%)	粒	実・継	土 壤	植 付 後	g 200~300	全 土 壤 (砂土は 除く)	暖 地	・ 春 植.
	SSH-43 (1%)	粒	実・継	土 壤	植 付 後	g 600~800	全 土 壤 (砂土は 除く)	暖 地	・ 春 植., ・ 夏 植.
					中耕後又 は排土後	600~800	同 上	暖 地	・ 株出し.
	SSH-43	水和	実・継	土 壤	植 付 後	10~20 g	全 土 壤 (砂土は 除く)	暖 地	・ 夏 植.
7) ばれい しょ	トリフルラン	粒	実・継	土 壤	植付後~ 雑草発生 前	g 400~500	沖積土壌	寒 冷 地	
							火山灰土	温暖地東部	
	AH-501㊟	液	実・継	茎 葉	萌 芽 前	30~40 m/	全 土 壤	寒 地	
						30~70		寒 冷 地	
					茎葉黄変 期	30~100	全 土 壤	寒 冷 地	
						70~100		温暖地東部	
	AH-502	水和	実・継	茎葉兼土 壤	萌 芽 前	20~40g 〔但し、寒 地は20~ 30g〕	全 土 壤	寒 地 寒 冷 地 温暖地東部	

対象作物	薬 剤 名	剤型	判 定	処理方法	処理時期	使 用 量 (製品a当り)	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
7) ばれい しよ (つづき)	ANK-553	乳	実・継	土 壌	植付後～ 萌芽前	m/ 20～30	全 土 壌	寒 地	
							火山灰土	温 暖 地	
						20～40	火山灰土	寒 冷 地	
							全 土 壌	暖 地	
	B-3015・P	粒	実・継	土 壌	植付後～ 雑草発生 前	500～600g	火山灰土	寒 冷 地	
						400～600	火山灰土	温 暖 地	
							全 土 壌	暖 地	
(秋植ばれ いしよ)	ジクワット	液	実	茎 葉	萌 芽 前	10～20 m/	全 土 壌	寒 地	
	NP-48 (Na)	水溶	実・継	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	m/ 10～15	全 土 壌	暖 地	1) イネ科雑草 優占圃場で使 用する。 単用処理また は体系処理： 広葉雑草対象 の既登録土壌 処理剤を使用 する。
	SL-236	乳	実・継	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	m/ 10～15	全 土 壌	暖 地	同 上
8) かんしよ	NP-55	乳	実・継	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	m/ 15～20	全 土 壌	温 暖 地 暖 地	同 上
	アラクロール	乳	実・継	土 壌	挿 苗 後	m/ 30～60	火山灰土	暖 地	1) イネ科雑草 優占圃場で使 用する。
	SL-236	乳	実・継	茎 葉	挿 苗 後 イネ科雑 草3～5 葉期	m/ 10～20	全 土 壌	温 暖 地 暖 地	1) イネ科雑草 優占圃場で使 用する。 単用処理また は体系処理： 広葉雑草に有 効な既登録土 壌処理剤を使 用する。

対象作物	薬 剤 名	剤型	判 定	処理方法	処理時期	使 用 量 (製品a当り)	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
9)てんさい	BJL-119+ 展着剤		実・継	茎 葉	雑草発生 始期	40～60 g + 10 m/	全 土 壤	寒 地	1) 指定展着剤 を使用する。 ・移植・直播。
	NP-48(Na)	水溶	実	茎 葉	イネ科雑 草 2～4 葉期	m/ 10～15	全 土 壤	寒 地	1) イネ科雑草 優占圃場で使 用する。 単用処理また は体系処理： 広葉雑草に有 効な既登録土 壌処理剤を使 用する。 2) 耕起に際し ルートマット の反転埋没を 完全にする。 ・移植・直播。

注：1) アンダーライン(実線)は、本年度拡大された部分(なお、薬剤名のアンダーラインは、本年度はじめて使用基準の作成されたもの)。

2) アンダーライン(点線)は、その1部が拡大されたもの。

第3表 転換畑(大豆)用除草剤使用基準一覧

薬 剤 名	処理法	適用地域	処 理 時 期	使用量 /a	適 用 土 壌	使用上の注意
1. アラクロール乳	土 壤	寒 冷 地	播種後出芽前 (雑草発生前)	45～60 m/	沖積 埴壌土	1) イネ科雑草優占圃 場で使用する。 2) 土壌水分が高く、 土塊が大きいので、 砕土・覆土を特にて いねいに行なう必要 がある。
		温 暖 地		30～60	沖積 壤 土	
		暖 地			沖積 砂壌土	
2. B-3015・P粒	土 壤	寒 地	播種後出芽前 (雑草発生前)	400～600g	全 土 壤	1) 土壌水分が高く、 土塊が大きいので、 砕土・覆土を特にて いねいに行なう必要 がある。
		寒 冷 地		500～600	沖積 埴土～埴壌土	
		暖 地			沖積 砂壌土	
3. CG-119乳	土 壤	寒 冷 地	播種後出芽前 (雑草発生前)	m/ 20～40	火 山 灰 土	1) イネ科雑草優占圃 場で使用する。 2) 土壌水分が高く、 土塊が大きいので、 砕土・覆土を特にて いねいに行なう必要 がある。
		温 暖 地			沖積 埴土～埴土	
		暖 地		20～30	沖積 砂壌土	
4. NP-48水溶	茎 葉	全 域	イネ科雑草 3～5葉期	10～15 g	全 土 壤	1) イネ科優占圃場で 使用する。 単用処理または体系

薬 剤 名	処理法	適用地域	処理時期	使用量 /a	適 用 土 壤	使 用 上 の 注 意
4. NP-48 水溶 (つ づ き)						処理：広葉雑草に有効な既登録土壌処理剤を使用する。 2) 土壤水分が高く、土塊が大きいのので、砕土・覆土を特にていねいに行なう必要がある。
5. SL-236 乳	茎 葉	全 域	イネ科雑草 3～5 葉期 〔但し、寒地は〕 4 葉期まで〕	m/ 10～20	全 土 壤	
6. トリフルラリン乳 +リニュロン水和 (現地混用)	土 壤	寒 冷 地	播種後出芽前 (雑草発生前)	m/ 15～25 + g 10～15	火 山 灰 土 沖積 壤土～埴埴土	1) 単剤の使用基準を守る。 2) 土壤水分が高く、土塊が大きいのので、砕土・覆土を特にていねいに行なう必要がある。
		温 暖 地			沖積 壤土～埴土	
		暖 地			沖積 砂壤土～埴土	
7. NIP 乳	土 壤	温 暖 地	播種後出芽前 (雑草発生前)	m/ 100～120	沖積 壤土～埴土	1) 土壤水分が高く、土塊が大きいのので、砕土・覆土を特にていねいに行なう必要がある。

昭和55年度水稻・畑作関係 生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

昭和55年度水稻・畑作関係生育調節剤試験成績検討会は、昭和55年12月12日(金)、国鉄労働会館(東京都千代田区丸の内1-11-4)において開催された。その結果の概要は、次の通りである。

水稻作関係生育調節剤試験は、作用性 7 剤(15点)、適用性 7 剤(38点)について実施された。このうち、新規薬剤は倒伏防止および育苗時の徒長・老化防止をねらいとする BAS-106 水和剤と PR-112 粒剤、低温条件下での登熟歩合の向上についての SZ-8027 液剤、籾の乾燥効果についての R-452 乳剤の 4 剤で、それぞれ有望と考えられるがさらに作用性の明確化あるいは適用条件の検討が必要とされた。タチガ

レン粉・液剤は、前年度通りの使用基準で実用性が確認され、BA 液剤は温暖地への適用地域拡大が可能となった。また、NK-191 粉剤および GF-030 液剤は、さらに適用条件の検討が必要と判断された。

一方、畑作関係では作用性 1 剤(1点)、適用性 3 剤(6点)の試験が行なわれた。C-MH 液剤については、馬鈴薯の貯蔵中の萌芽抑制について実用化可能と判定され、使用基準が作成されたが、CaCO₃ 水和剤(馬鈴薯)と GF-030 液剤(てんさい)は効果が不十分で、継続?と判定された。

なお、薬剤別の判定結果および実用化薬剤の使用基準は、次表の通りである。